

大分県の民俗芸能(六)

染 矢 多喜男

15 植野神楽 中津市植野

中津市植野に鎮座する若鏡神社の秋満社家が伝承して来た豊前岩戸神楽系統の神楽である。

一、種類・番付

イ、湯立神楽 33番

奉幣・大麻舞・老人手房・式人手房・大汐舞・御先・掛手房・三神・幣証護・四ツ手・引入柴・神迎・鎮座・弓証護・地割・綱口・大蛇退治・岩戸次第(思兼命・東方鬼・南方鬼・西方鬼・北方鬼・石凝留命・玉祖命・太玉命・長白羽命・宇須女命・手力男命)・斉庭(清祓・神随・湯之御先・一國一宮・鎮火祭)・七五三祓。

ロ、神阪神楽 33番

清祓・奉幣・大麻舞・老人手房・式人手房・大汐舞・大神・早神・美美久・御先・三神・幣証護・御子神楽・四ツ手・弓証護・地割・掛手房・神迎・鎮座・引入柴・綱御先・岩戸次第(思兼命・東方鬼・南方鬼・西方鬼・北方鬼・石凝留命・玉祖命・太玉命・長白羽命・宇須女命・手力男命)・七五三祓。

ハ、年回神楽 33番

清祓・神随・靈前御先・御靈迎・鎮座・奉幣・大麻舞・老人手房・式人手房・大汐舞・大神・早神・御先・神柁・弓証護・地割・三神・美美久・小一郎・幣証護・綱御先・宝満・掛手房・御子神楽・四ツ手・蛇迎・引入柴・皇矢文・劍舞・御神楽・綱

口・大蛇退治・七五三祓。

一般に並神楽・18番神楽というのは正式番付ではないが、次の18番である。清祓・大麻舞・老人手房・式人手房・大汐舞・御先・大神・地割・岩戸次第(思兼命・東方鬼・南方鬼・西方鬼・北方鬼・石凝留命・玉祖命・太玉命・長白羽命・宇須女命・手力男命)・七五三祓。以上の番付中、読み仮名を付したものは初出の番付である。

二、人数・装束・採物・頻度

各番毎の人数・装束・採物頻度の概要は別表の通りである。

植野神楽

番付・装束・彩物・頻度

No	番付	配役	人数	毛頭	エボシ	其他	符衣	サハヤ	手甲	其他	袴	カシラ	大口	脚絆	草鞋	其他	鈴	扇	太刀	弓矢	其他	頻度
1	奉幣	奉随	1		○		○				○						○				引布	B
2	大幣舞		4		○		○				○						○					A
3	大幣人房		1		○		○				○						○					A
4	式人		2		○		○				○						○					A
5	大汐舞		4		○		○				○						○					A
6	大早		4		○		○				○						○					B
7	御先		1		○		○				○						○					C
8	御先		1		○		○				○						○					A
9	三神		1		○		○				○						○					A

のび上る。左・右・左で後退する。幣尻を胸に付けて左手を伸す。神殿の方へ幣頭を向け、爪先でのび上る。足を揃え、幣尻を右手で握って胸に付け、左手で幣頭を握ったまま左・右・左に静かに振る。振り終った時に、また幣頭を神殿の方へ向け、足を揃えたまま爪先でのび上る。左・右・左で神殿の方へ行く。足を揃えて爪先でのび上り、左足を一足後へ下げ、右足を引いて坐る。両手を伸して幣を立て、下を向いて右手を上へ上げ、左手で幣尻を握る。幣を斜めにして胸に付ける。頭を上げて立つ。左足を一步前に出し、右足を出して両足を揃える。爪先でのび上り、左・右・左で後へ退る。両足を揃えて爪先でのび上る。左・右・左へ静かに幣を振る。また爪立って、幣を斜めにして胸に付ける。左・右・左で前に進む。両足を揃えて爪立つ。一足後へ引いて坐る。幣をとりかえる。左手を幣頭の方に、右手を幣尻の方にする。幣を斜めにして胸に付ける。腰を立てて立つ。左足を前に一足出し、右足を出して両足を揃えて爪立つ。左・右・左で後退する。両足を揃えて爪立つ。左・右・左に幣を静かに振る。神殿の正面に幣を向けて爪立つ。幣を斜めに胸に付ける。左・右・左で前に進む。両足を揃えて爪立つ。一足後退して両足を揃えて坐る。目礼して幣を三宝の上に置く。拍手を打って3拝する。立って5人共楽屋に入る。拜殿の作り方はきよごさを縦に1枚横に2枚敷く。神殿の前に三宝を据える。三宝の上から白木綿をきよごさの上に引く。三宝の上に奉幣を置く。

3 大麻舞（鈴開ともいう）

コカリギンにヨボシを着け、左手に幣を持つ。4名同時にタッタノハヤシ（註1）で出る。順に舞って（註2）、最初の人が神殿の右前に坐る。2番目はその左側に坐る。3・4番目の人はそれぞれ2・1番目の人の後に坐る。一回は神を拝み、拍手を打って、清祓と大祝詞を1回ずつ奏上する。神を拝み、拍手を打って3拝する。4名同時に立って目礼する。ギユウヒキ（註3）が一人で順に舞って、順に舞い退り、神殿の前で屈む。右の袖をかけて後退する。袖をはねて左・右・左で神殿の前に行く。2番目の人と一緒にひとつ舞の順の舞込みを2回ずつ舞う。2番目の人が残って、3番目の人と同様に2回の舞込みをする。3番目の人が残って4番目の人と2回舞込む。4番目の人が残って1番目の人と2回舞込む。そのまま4名が一緒に

後へ、逆にひとかど（一隅）限っては二かど行き、また退っては二かど行く。自分のかどに着いた時に、右手を挙げて左にカヤル（廻る）。順逆をして、幣の手・鈴の手を舞う。順逆をして折柳（註4）を舞う。4名共折柳が終ると早物になり、順逆をして方にかかる。（註5）。東方から南方↓西方↓北方と取る。それから中央を取る。中央の取り方は入れ組み取り（交叉）である。中央が終ると順逆をする。自分のかどから一かど手前で袖をはね、水車（註6）を2回繰返して、自分のかどまで行く。拝殿の内へ向き、4名同時に幣尻を突き、神様の方へ向って坐る。神を拝んでから立つ。順に舞って榮屋に入る。

註1 出の囃をいう。

註2 右廻りに舞う。

註3 最初の人をさす。

註4 順に廻って2回舞込み、神前で礼。

左に2回廻って袖をかけ、順に廻って2回舞込み、神前で屈む。後退して右袖をかけ左膝をつく。逆に右膝をつき右袖をはねて立つ。左に2回舞込み、順に大廻りを2回して、2回舞込んで、神前で礼をする。

註5 かど（隅）をとること。

註6 右袖をはね左舞いして向いのかどに行く。

4 耆人手房

この神楽は扇を持って1名で拝殿に出る。順に舞い、神様の方に向って坐る。拍手を打って3拝する。扇を持って立つ。に舞って舞込み、神様の前に行つて屈む。逆に舞ってまた順に舞って方にかかる。東方の隅に行つて屈む。右袖をかけて左・右・左でけっかい（註1）を踏む。拝殿の中で踏切る。西方のかどまでけっかいで後退する。東方のかどに行つて屈む。逆に舞つて順に舞戻して南方にかかる。南方のかどに屈んで右袖をかけ、左・右・左でけっかいを踏む。拝殿の中で踏切る。けっかいで北方のかどまで後退する。逆に舞つて順に舞戻して西方にかかる。西方が終ると北方にかかる。西・北方とも東・南方

のかかりかたと同様である。北方が終ると逆に舞い、また順に舞戻して神様の前に行って坐る。黙礼して笹を取る。左の手に
2 本とも持って黙礼する。後退して順に舞う。大廻りして小廻りして、右の手に笹を持ちかえる。逆に舞う。舞込みと同時に
右・左に笹を分けて持つ。十二のエトのヒキウタの祝詞を読みながら順に舞う。読み終りて東方にかかる。左・右・左に笹を
振って言儀を言う。それから南方↓西方↓北方へかかる。北方が終って中央にかかる。中央で舞込んで神様の方に向って方の
言儀を言う。そのまま順に舞いながら言儀を読む。言儀が終って東方にかかる。笹を左・右・左に振りながら言儀を言って、
東方の隅に向って左足を立て右膝をつく。笹を前から後に、また前に廻して立つ。南方にかかる。西・北方とも東方のかかり
かたと同じ。北方が終ってそのまましゅうぎょう(註2)にかかる。しゅうぎょうは逆に舞って踏む。舞込みをして、神様の
前できりかまえ(註3)をする。膝車(註4)をかやして順逆でぎりを舞い(註5)、方にかかる。この方の取り方は隅から
隅にとる。まず西方の隅に舞込んで、笹を左の前に右を後に出す。雛子に合せて東方の隅に行く。鈴の手に身をかわず。笹を
持ちなおして西方の隅に行く。鈴の手に身をかわず。笹を振って東方の隅に行く。鈴の手に袖をかけて拜殿の中央まで後退す
る。袖をはねて幣の手にかやる。また鈴の手にかやる。順に舞って南方にかかる。西・北方とも東方と同様に取る。方を終っ
て舞込む。神様の前で切込み、折柳をする。順に舞って舞込む。神様の前に行つて、鈴の手に袖をかけて坐る。笹を置き扇を
取つて3 拜して立つ。順に舞って楽屋に入る。

註1 2 回舞込んでかどで屈む。左足に揃えて右袖をかける。右足に揃えて袖をはねる。かどで退つて袖をはね、向いのか
どで屈む。

註2 一歩前に出て足を揃える。トントントンと踏切つて3 足退る。トントントンと打切つて、3 足前に出てトントントン
と打切る。

註3 右手・左手を数回廻して切込む。

註4 膝で廻ること。

註5 きりきり廻ること。

6 式人手房

この神樂は2名が扇を持って、順に拜殿に出て舞込んで坐る。拍手を打って3拝する。1本宛笹を左手に取って立つ。2名一緒に一足後退して言儀を言う。左・右・左に笹を振って前へ進む。黙礼して2名共舞込んで入れ組む。また舞込む。舞込みは前後とも2回する。舞込み終つて逆に後退する。一かど退つては鈴の手を上げる。また後退しては前へ行く。自分の席に戻つた時に幣の手にかやる。順逆をして幣の手・鈴の手をする。また順逆をして1名ずつ折柳をする。早物(註1)で順逆をする。しゆうぎようにかかる。しゆうぎようは3回する。それから方にかかる。方の取り方は鈴開の取り方に同じである。方が終つてから順逆をし、水車をする。2名一緒に笹の尻を拜殿に立て、身をかわして坐る。笹を置く。3拝して立つ。順に舞つて楽屋に入る。

註1 灘子の調子名。早い調子のこと。

6 大汐舞(花神樂ともいう)

4名一緒に幣を持って拜殿に順に出る。大麻舞と同様に坐る。拍手を打って3拝する。4名一緒に立つて内に向く。拜殿の中央に行つて屈む。右袖をかけて左・右・左にけっかいを踏む。隅に退つてまた中に寄つて屈む。幣の手にかやる。一足踏出して外に向つてけっかいを踏む。隅に行つて屈む。立つて自分のかどに後退して言儀を言う。順に舞う。言儀が終つて方にかかる。東方にかかつて立ちながら言儀を言う。南方↓西方↓北方↓中央とかかる。方が終つて4名一緒に神様の方へ向つて礼をし、言儀を言う。言儀が終つて東方にかかる。右膝をついて屈む。言儀を言つて立ち、南方へかかる。西方↓北方↓中央とも東方と同じ取り方である。中央に屈んだ時、チーヒョー、ヒョーヒョーヒョーオヒョオ、ヒョオリ、ヒョオヒョオで立つ。幣を左・右・左に振る。幣の手に二つかやつて屈む。右手に袖をかけて立つ。袖をはねて幣の手に二つかやる。立ちながら左・右・左に幣を振つて幣の手にかやる。早物になつて順逆をして方にかかる。東方に4名1列に並んで、幣を振つて後退する。

また前へ行つて後退する。東方が終つて南方にかかる。西・北方とも東方と同じ取り方である。中央は各自の席に着いて、入れ組みの方を取る、順逆をしてギユウヒキから花を取る。花を取り終つて、順逆をして東方にかかる。花を外に振り内に振つて南方にかかる。西方↓北方↓中央とも東方と同じ取り方をする。花散らしの方が終つて順逆をする。水車をかやして各自の席に坐る。盆を神前に揃えて置く。立つて順に舞つて楽屋に入る。

7 大神

4名共に拝殿へ出る。順に舞つて坐る。拍手を打つて3拝する。ギユウヒキが立つて老人手房と同じけっかいを踏む。終つて2名が舞込む。たねを残して次々に舞込む。次に順逆をする。幣の手・鈴の手をする。順逆をして自分の席に着く。ギユウヒキから1名宛に折柳をする。次に順逆をして水車をかやす。立ちながらやめる。神様へ礼をして楽屋へ入る。但し略して2名で折柳をしてもよい。

8 早神

早物で拝殿へ出る。坐らないで大麻舞と同じ舞をする。折柳は2名とする。終つて順逆をして水車をかやす。神殿へ向つて立ちながら終る。目礼して楽屋に入る。

9 御先

幣は大幣を持って拝殿へ出る。順に舞つて舞込む。神殿の前に坐る。拍手を打つて3拝する。立つて順に舞い、折柳をする。神前へ行く。幣を目と同じ高さに横にして屈む。逆に舞つて順に舞戻し、方にかかる。方の取り方は鈴開の時に同じである。鬼神は幣が折柳を終つて早物になった時に、杖を扇と一緒に右手に持つて花道の出口に構える。腰を張つて引足（註1）で拝殿の際まで出て構える。右を見左を見、また右を見る。小かぶりを振りながら鈴の手にかやる。すり足で花道の中央まですり出る。右手に袖をかけ左手に袖をかける。また右手に袖をかけてかぶりを振りあげる。右袖をはねて左を見る。幣の手に身をかかわして舞退る。杖を幣の手に持ち扇を鈴の手に持つ。腰を張つて（註2）構える。引足で拝殿の際まで出る。すり足で構

える。右を見左を見、また右を見かえす。小かぶりを振る。杖をついて幣の手に身をかわす。鈴の手に袖をかける。また幣の手に袖をかけて構える。小かぶりを振って構えたまま、花道に入って東方にかかる。方の取り方は拝殿から花道へ入ったまま東方に構える。扇を振立ててかぶりを振る。ずり足でずり退る。両足を揃えて両袖をはねる。杖をひねって（註三）東方へ行く。幣の手にかやると西方に向いて右袖をかぶって屈む。左の袖をかけ右の袖をかける。かぶりを振り上げて右袖をはねる。幣の手にかやると舞込む、楽屋の出口から身構えをして引足で拝殿に出る。拝殿を出る時に右・左を見て、右を見て小かぶりを振り、杖を突く。突いて幣の手にかやると。鈴の手に袖をかける。また、幣の手に袖をかけて身構える。小かぶりを振って花道へ入り、そのまま南方にかかる。南・西・北方とも東方と同じ取り方である。北方を終ると引足で出る。身をかわして身構える。花道に帰って拝殿へ向って構え、拝殿へ出る。拝殿への出方は、花道の真向いの隅で両袖をはね杖を突く。小かぶりを振る。幣の手にかやるときを舞う。足を踏み止め右袖をかける。また左袖をかけて身構える。順に舞う。楽屋の方に向く。幣の手の隅から鈴の手の隅まで行く。また、左方へ行き右方へ行く。自然と中央に寄って袖をかける。かぶりを振り右袖をはねる。幣の手にかやると。左の袖をはねて身構える。引足をして東方にかかる。東方のかかり方は引足で西の隅まで行く。両足を揃える。腰を張って身構える。静かに東方を見る。左足を引いて右の袖をかける。腰を張って身構える。右足を踏み出し小かぶりを振る。東方の隅に行く。身構えたまま東方の中央までずりよる。扇でゆりあげる（註四）。小かぶりを振りながら西方の中央へ行く。南方へ向く。横になつてかぶりを振りながらずりよる。両足を揃える。両袖をはねる。杖をひねって東方へ行く。左にかやると。西方に向いて右の袖をかける。左の袖をかけ右の袖をかける。かぶりを振る。右足を踏出す。右袖をはねて幣の手にかやると。左袖をはねる。引足で北方のかどまで行く。両足を揃える。面を幣の手の方に傾けて南方を見る。右の手に袖をかけて南方のかどにかかる。扇を拡げて南方の中央までずりよる。扇をゆすりながらかぶりを振る。西方に向く。北方の中央にずりよる。両足を揃えて両袖をはねる。杖をひねって南方へ行く。右袖をかぶって順に舞う。東方へ舞込む。右の袖をはねる。はねたはずみに西方の中央に行く。身構えてそろそろかぶりを振りながら北方へ向く。横ずりして東方の中央に行

く。両足を揃えて両袖をはねる。杖をひねって西方の中央に行く。幣の手にかやる。右袖↓左袖↓右袖をかける。かぶりを振る。右袖をはねて幣の手にかやる。左袖をはねる。引足で南方の隅まで行く。両足を揃えて止まる。東方に向いて北方を見る。北方を見た時に左足を引いて右袖をかける。北方の隅に行つて構えながら、北方の中央まで横ずりにずりよる。かぶりを振りながら東方に向く。南方の中央まで横ずりにずりよる。両足を揃えて北方に向く。両袖をはねる。杖をひねって北方の中央に行く。屈んで右の袖をかぶる。順に舞つて拜殿の中に舞込む。仰向い雲幣(註5)を見る。両袖をはねる。扇をあげる。順に舞いながら仰ぐ。右袖↓左袖↓右袖をかける。かぶりを振る。袖をはねる。杖をひねって袖をかける。楽屋に舞込む。

鬼神が引足で花道の真向いの隅に向つて出る。幣差は幣を担いで続いて出る。鬼神はかどで両足を揃えて止まる。左・右・左と後方を静かに見る。鬼が止まった時に幣差が幣で打掛かる。鬼神は幣を見て屈む。右膝をついて仰向く。杖をかたげ扇を振つて立つ。順に舞う。幣差が後から突いてくると、鬼神は舞いながら幣差の首を抱く。大舞いして小舞いに舞込む。花道の向いの隅に舞込んで袖をはね身構える。見合う。見合とは、鬼神が身構えたまま花道の所まで後退して、順に一かど行き身をかわして構える。逆に二かど戻つて身をかわして構える。順に舞つて、花道の向側の隅から花道のきわまで行く。2・3回ぎりぎり舞い、幣差の前で構える。幣差は鬼神と同様に足を揃えて構え、互に見合う。幣差は拜殿の隅から花道に向つて構える。鬼神と幣差は幣の手・鈴の手で楽屋に入る。幣の手とは鬼神・幣差両者が左足を踏出し、杖と幣を打合せることである。鈴の手とは鬼神・幣差両者が右足を踏出し、扇で構えることである。4・5回打合つて幣差が鬼神を楽屋に押込む。

幣差が先に拜殿へ順に舞つて出る。鬼神が続いて引足で順に中ほどまで出る。足を止め身構える。右袖をかけて行く。扇で鬼神の背後から腰の辺を突く。逆に身をかわして逆に舞う。鬼神が神前に来た時に、幣差は幣を鬼神の扇に打込む。鬼神は打込まれると身構える。小かぶりを振る。逆に大廻りし次第に小廻りになって、花道の真向の隅に舞込む。幣差をけはなして幣の手にかやつて構える。幣差は鬼神と舞別れて、花道に向つて身構える。鬼神は幣差を見詰めて後退する。腰を振り右膝をつく。杖を担いで立つ。扇を振り逆に舞う。幣差は鬼神の後に続いて行く。鬼神の腰の辺を突く。順に舞い戻を。神前で身構え

る。左膝をつき、右手を鬼神の左脇下に差込む。鬼神は幣差の腕を抱いたまま、神前を左・右・左に行く。左に行つては杖を突き、右に行つては杖を突く。順に舞込み、幣差は花道の真向うにはねて構える。鬼神・幣差両者共に構えたまま、鬼神は幣の手、幣差は鈴の手で近付く。両者は肩でせりあう。鬼神は順に、舞い幣差は逆に舞つて行く。鬼神・幣差両者は出合つて身構える。見合つて舞い別れる。鬼神は逆に戻り、幣差は順に戻る。また、両者出合つて幣と杖を打合せて身構える。鬼神は順に、幣差は逆に舞い戻る。両者出合つて鬼神は扇を振上げる。一廻り小舞に幣差を押廻す。また、扇を振上げて身構える。両方に別れる。鬼神は逆に、幣差は順に舞い戻る、出合うと杖と幣を打合せ、上段・下段をする。上段・下段とは、鬼神が扇を捨てて幣差と一緒に杖と幣を打合せたまま鬼神は鈴の手にかやる。拜殿を杖で打つ。両手をひろげて杖を差上げて打掛ける。幣差は幣を横に両手で持つ。幣ぶし（註6）で鬼神の左脇下を受ける。両者共に力を入れて2・3回もみ合つて別れる。両者とも身をかかず。次に鬼神は杖で拜殿を打ち、杖を振り構えて行く。幣差は幣を横にして頭上で杖を受け止める。受け止めたまま鬼神を楽屋に押込む。鬼神が先に拜殿に杖を突いて小舞いして出る。右の袖をかぶる。順に大廻りして東方にかかる。右に寄り左に寄る。幣の手にかやる。右の袖をかける。順に舞つて西方の中央に舞い込む。右の手に袖をかけて杖を持つ。左の手に袖をかけて身構える。杖を振上げ、東方に打込んで行く。幣を拜殿の中央に打落す。幣差は鬼神の後について行く。鬼神が東方に打込んだ時に杖につけて行つた幣を拜殿へ打込む。両者は舞い別れる。鬼神が杖を振上げて東方へ打込む。幣差は鬼神の左脇下に幣尻を差込んで抱く。鬼神は幣尻を握つて幣差の首を杖で抱く。逆に大廻りして、花道の真向いの隅に押しして行く。足を踏止める。幣差を楽屋に引込む。

鬼神が先に出て南方にかかる。幣差は鬼神に続いて出る。鬼神の方の取り方は東方と同じである。鬼神は北方の中央に舞い込む。身構える。杖を振上げて南方にかかる。幣差は鬼神と舞い別れて、南方の中央で幣を差上げて構えている。鬼神が打込んだ時に幣で受ける。鬼神は杖で幣を打つ。互に身をかかわして入れ込んで身構える。幣差は南方、鬼神は北方で相對して構える。鬼神が杖を振上げて行く。幣差は幣尻で鬼神を抱いたまま楽屋に押込む。

幣差が先に拝殿へ出る。続いて鬼神が出て西方にかかる。方のかかり方は南方と同じである。鬼神が東方に舞い込む。西方に向いて身構える。杖を振上げて打込んで行く。幣差は西方に構えていて、鬼神の足を幣ではねる。鬼神はとび退って身をかわす。杖を振上げて西方で身構える。鬼神は東方へ舞い込む。杖を振上げて構え、西方へ打込んで行く。幣差は鬼神の腰を抱く。鬼神は幣差の首を抱いて逆に舞う。大廻りしながら小舞いする。幣差を花道の真向いの隅に押し込み、幣尻を張って花道に引込もうとする。幣差は鬼神を元の位置まで引出す。鬼神は $2 \cdot 3$ 回引込もうとする。幣差が動かないので幣を離して追廻す。幣差は拝殿一周して花道の入口で構える。鬼神は幣差の後を追って行く。幣差の前で杖を振上げて構える。

鬼神は北方にかかる。幣差は鬼神について行く。鬼神は北方から南方へ舞込む。杖を振上げて北方へ打込んで行く。幣差は幣を打込む。拝殿の中央で杖と幣を打合す。両者共に大廻りする。袖をかけて順に舞って構える。中央にかかる。鬼神は杖を振上げて雲幣を打込む。幣差は幣を振上げて打込む。鬼神は雲幣を 3 度打込んでから、杖を振上げて東方から北方まで切廻す(註7)。杖をひねって両手で横に持ち、神前に坐る。幣差も鬼神へ幣を打掛けて坐る。

鬼神は花道の真向いの隅に屈む。幣差は神前に居て共に言儀を言う。幣差は折柳をして鬼神の杖を受取る。一礼して鬼神と入替る。鬼神は杖を幣差に渡して礼をする。扇をひろげて折柳をする。幣差のいる所まで舞込む。引足で花道の入口まで行く。足を踏止めて後退して構える。楽屋へ入る。幣差も続いて楽屋に入る。

註1 ゆっくり足を運ぶ。この時、足の逆方向に首を振る。

註2 足を踏張って腰を落す。

註3 杖を指で廻す。

註4 ゆすりあげる。

註5 竹に結んで十字に吊した幣。

註6 幣の幹。

註7 左右の腕を廻して切り、一八〇度廻る。

10 三神

この神楽は山の神・里の神・海の神の出合の神楽である。先ず、里の神は鍬を担ぎ、海の神は鯛をつけた釣竿を担いで出る。2神は折柳をする。神前に並んで坐っている。山の神が鎌を持ち榊を担いで引足でひきうたを歌って出る。順に舞って2神の間に行く。膝をつき、掛合に言儀を言う。2神が折柳をし、次に山神が折柳をする。交互に折柳を3回して、方にかかる。2神は東方から、山神は西方か左・右・左をする。山神が2神の間に折込んで入れくみをして構える。両者共に順に大廻りして南方にかかる。4方とも同じ取り方をする。東方の入れくみの時に山神がつんぐりをかやす(註1)。南方の入れくみの時に3神共つんぐりをかやす。西方の時には2神がつんぐりをかやす。北方の時は2神がつんぐりをかやす。折柳の時は2神は折柳が終ると、神前で拜殿の中に榊を切込む。山神は下手から2神に相對して、3神が同時に切込む。切込んでから順に大廻りをする。切構えて舞別れる。山神が折柳をする。

11 美々久

紙貼りの笠を冠る。笠は頂上に幣を付け、縁にぬさをつける。4名同時に拜殿へ出て順に舞う。坐って拝礼し、拍手を打ち神へ礼をする。立つて2名が先ず折柳をし、続いて他の2名が折柳をし、順逆をして方にかかる。方の取り方は入れくみである。東方の時は1・2番が西方に行き、3・4番が東方に行く。両者とも方に行つて屈む。全員鈴の手に袖をかけて後退する。右膝をついて袖をはねて立つ。順に舞つて南方にかかる。方の取り方は凡て同様である。中央の時はかどからかどに入れくみをす。方を終つて順逆をする。水車をかやして坐る。拝礼して立ち、順に舞つて楽屋に入る。

12 幣証護

トロスコトンのトンで、囃子に足を揃えて4名同時に出る。2名は坐り、2名はその後に立つ。前の2名は神前で幣の手にかやつて下手に行く。また、幣の手にかやつて神前に行く。トントントンの囃子に合せて足を踏切る。3足後退して、また踏

切る。3 足前進して踏切る。4 名同時に幣の手にかやって順に行く。前の1名が残って後の1名が加わる。また、2名で足の踏切りを前記同様にし、1名が残って新たに1名を加える。同様な足の踏切りをする。踏切りが終ると、順逆をして各自の位置に戻る。トロスコトンのトンで足を踏む。神前で幣の手にかやる。下手に4名共行く。同時に足を揃えてトントントンで踏切る。幣の手にかやる。神前で足踏みして踏切る。3 足後退して踏切る。3 足前進して踏切る。4 名共に幣の手にかやる。早物になって順逆をする。各自の位置に戻ってトロスコトンのトンで足を踏止める。順に一足行き一足後退する。拜殿の中央へ一足隅へ戻る。内へ向合って、チイヒヨーヒヨーで左・右・左に幣を振る。幣の手にかやる。神の方に向ってトロスコトンのトンで足を踏始める。神前で幣の手にかやる。下手に行つて幣の手にかやる。神前で踏切り、3 足後退して踏切る。3 足前進して踏切る。外隅に向つてチイヒヨーヒヨーで幣を左・右・左に振る。鈴の手にかやる。また足踏みをする。神前で鈴の手にかやる。下手に行つて踏切る。神の方に向つて3 足行つて踏切る。後退して踏切る。3 足前進して踏切る。幣の手にかやる。早物で方にかかる。

4 名共に東方に行つて、トロスコトンのトンで東方に向つて足を踏止める。3 足前進し3 足後退する。三足前進して一足後退する。トントントンで踏切る。チイヒヨーヒヨーで幣を左・右・左に振る。幣の手にかやる。一の字になってトロスコトンのトンで足を踏止める。東方と同じ取り方で南方にかかる。東・南・西・北方とも皆同じ取り方である。中央は入れくみにとる。方が終ると、早物で順逆をする。水車をかやして立ちながら各自の位置に戻る。神前に向つて拝礼する。順に舞う。幣を担いで楽屋に入る。

18 御子神楽

この神楽は2名で舞う。天鈿女命の面をつけ、天蓋を冠つて順に出る。神前に坐つて拍手を打つ。拝礼して立つ。2名共に折柳をする。順逆をして方にかかる。方の取り方は鈴開の方の取り方と同じである。方が終ると水車をする。坐つて3 拝する。立つて順に舞う。楽屋に入る。

禪を持って拜殿へ出る。順に舞って坐る。拜礼して拍手を打つ。立って2名ずつ折柳をする。終つて順逆をして方にかかる。禪を両手に持つて、東方に禪を打込んで屈む。立つてまた屈み、膝をついて禪をはねる。また、前に行つて屈む。打込んで後退して、膝をついて禪をはねる。東・南・西・北方とも同じ取り方である。中央に禪を打込んで膝をつく。手早く禪を掛けて刀を抜く。4名共に刀を抜き揃えて、刀を振つて立つ。順逆をする。しゅうぎようを踏む。神殿に向つて切る。構えて順に舞う。しゅうぎようを踏む。3回踏んで順逆をして方にかかる。東方に1・2番が並び、その後方に3・4番が並ぶ。4名共に刀を振つて切込む。順に舞つて南方にかかる。東・南・西・北方とも東方と同じ取り方である。中央は4名共拜殿の中に向つて刀を振つて切込む。次に1名ずつ舞う。刀を振つて立つ。順逆をする。自分のかどから向うのかどに向つて刀を振つて行く。2・3回行つたり来たりして、たぐりだち(註1)をして、切つて構える。順に舞う。向いの隅から自分のかどに向つて方を取る。たぐりだちをして切込む。順逆をしてきりを舞う。楽屋を背にしてたぐりだちをして切つて構える。楽屋に入る。4名共同じ舞い方をする。

註1 左右の手を交互に頭上に廻す。

15 本弓証護

弓矢を持つて、トロスコトンのトンで拜殿へ順に出る。各自の位置に着く。後の2名は起つ。前の2名はトロスコトンのトンで神前の方へ行く。幣の手にかやる。下手に行つて幣の手にかやる。上手に行つてトントントンで踏切る。3足後退して踏切る。3足前進して踏切る。幣の手にかやつて順に行く。この時、後の2名もかやつて行く。トロスコトンのトンで舞込む。神前に出て幣の手にかやる。下手に行つて幣の手にかやる。トントントンで踏切る。3足前進して踏切る。3足後退して踏切る。3足前進して踏切る。4名共に幣の手にかやつて順に舞う。順逆をして方にかかる。4名共東方に行く。弓矢を左手に持つて屈む。弓矢を立てて起つ。後退してまた前進して屈む。弓矢を立てて起つ。後退して幣の手にかやつて南方にかかる。東

・南・西・北方の取り方は皆同じである。中央は入れくんでとる。方を取り終ると、牛引は神前で右の袖をはねて屈む。刀を抜いて振って立つ。次に2番目の者が神前で刀を抜く。3・4番と順番に刀を抜いて、自分のかどで刀を振る。逆に戻り、順逆をしてしゅうぎょうにかかる。しゅうぎょうを3回する。牛引から順番に神前で刀を納めて矢を取る。順逆をして方にかかる。4名並んで東方に行つて屈み弓を引く。次に立って幣の手にかやり、南方にかかる。東・南・西・北方とも同じ取り方である。中央は内側に向合つて弓を引く。頭を下げて矢を逆に持換えて立つ。順に舞つて楽屋に入る。但し、岩戸前の弓証護は刀を持たないから、刀の手を抜いて弓矢だけの手を舞う。本証護は狩衣を着て毛頭をかぶつて舞う。

16 本地割

兄達4名が先に出て切構えている所に、弟が順に舞つて出る。東方の隅から西方の隅に舞込む。東方へ切込んで行く。東西3名で切合う。切構える。乙五郎は順に舞つて南方にかかる。東・南・西・北方とも同じ切込み方である。方の切込みが終つた時に神仙が出る。神仙は言儀を言つて、引歌(註1)で東方にかかる。南方↓西方↓北方↓中央と言儀を言う。神仙は乙五郎と舞別れて楽屋に入る。

乙五郎は東方へ切込む。南・西・北方へ切込む。切込み終ると、神仙が出て乙五郎に言儀を言う。東方から五行の幡を渡して楽屋へ入る。乙五郎は神仙と舞別れてきを舞う。しゅうぎょうを3回する。(湯立の時は中のしゅうぎょうを湯庭でする)しゅうぎょうが終つて方にかかる。方の取り方は隅から隅である。東方にかかるときは北方の隅に向つて、西方から東方へ右手の刀を振つて行く。西方の隅に戻り、あちらこちらに寄つて、両足をふみひろげてたぐりだちをする。身をかかわして順に舞い、南方にかかる。東・南・西・北方の取り方は同じである。東方と西取ではたぐりだちをしてつんぐりをかやす。方を取り終ると切構えをして楽屋に入る。

4名の者は立つて刀を振る。順逆をしてしゅうぎょうを3回する。(湯立の時は中のしゅうぎょうは湯庭の中です)次に方にかかる。方の取り方は四ツ手の方の取り方と同じである。方を終れば、拜殿の中に向い合つて切構えをする。順に舞つて

楽屋に入る。

但し、四つ手の舞をしない時は、四つ手の舞上げと同じように1名ずつの舞上げをする。4名の舞上げが済んでから、神仙が拝殿に出て舞上げをする。舞上げはけっかいである。一人手房の扇の手のけっかいと同様である。舞い終つて楽屋に入る。岩戸前の地割にはかど4名の舞上げはないが、後は同様な舞い方である。乙五郎は太刀を持って出る時は花道の向いのかどの人に右手を突きかけて行く。かどの人は乙五郎の右手の刀の柄尻を握つてもみ合う。つき別れて双方とも切構えをする。

註1 舞いながら歌う歌をいう。

17 掛手房

この神楽は祝詞物である。祝詞を持つて出る。神の方に向つて坐る。拍手を叩いて拝礼する。立つて2名で折柳をする。順逆をして舞別れる。兩名は向合つて床几に腰掛ける。十二の掛歌(註1)を読む。歌が終ると兩人は立つて黙礼する。順逆をして方にかかる。方の取り方は鈴開の終りの方の取り方と同様である。方を終つて順逆をする。水車をかやして坐る。拝礼して立つ。順に舞つて楽屋に入る。但し、方の取り方は二通ある。東方にかかる時は牛引が西方のかどから東方のかどに向けて行く。2番目に出た人は東方のかどから西方のかどに向けて行く。兩名は右袖をかけて拝殿の中央まで後退する。出合つて入れくむ。牛引は北方の隅に向つてけっかきを踏む。後退して隅で踏切る。拝殿を半月状に順逆をして南方にかかる。4方とも東方と同じ順序でとる。

註1 交互に掛け合う歌をいう。

18 神迎

この神楽は外神楽(註1)である。幣差(1名)・大太刀(1名)・小太刀(1名)・薙刀(1名)である。鬼神の前段と後段に分れている。幣差・大太刀・小太刀・薙刀の順序で拝殿へ出る。拍手を打つて拝礼をする。神楽の場所へ行く。

大太刀は一足出て、鬼神に向つて構えている。鬼神が出て袖をかける。かぶりを振つて引足をする。また2・3回袖をかけ

てかぶりを振る。大太刀に目をつけて構えをする。兩名とも見合つて進む。神楽場の真中で出合つて構える。もみ合つて別れる。兩名とも旧位置へ帰る。鬼神は杖を振上げて行く。大太刀は太刀を振上げて行く。兩名は出合つて切合いを始める。大太刀が退ると鬼神が切込んで行く。端まで行く。鬼神は後退する。大太刀は切込んで進む。また、大太刀が後退する。鬼神は大太刀を切詰める。大太刀が逆に鬼神に切込んで行く。鬼神は後退して、神楽場の中程で身をかわして構える。大太刀は太刀を振上げて構える。両者は見合つて中ほどで舞別れる。両者は旧位置まで戻る。また、両者は行合つて鬼神は大太刀を飛越して構える。大太刀は構えたまま鬼神の出た位置まで逃げ込む。両者は神楽場の中ほどで構えて見合をする。鬼神が順に舞つて、大太刀が順に舞う。両者は構えて逆に舞い、また構えて順に舞う。大太刀が終れば小太刀にかかる。小太刀は大太刀と同じかかり方である。小太刀の次に薙刀がかかる。薙刀も大太刀・小太刀と同じかかり方である。薙刀が終つてから幣差にかかる。両者は出合つて身構えをする。もみ合つて旧位置まで後退する。また出合つて見合をする。舞別れて出合い身構をする。幣の手・鈴の手をする。幣の手は鬼神が舞えば幣差も逆に舞う。出合つてクルイ(註2)をする。鬼神が逆に舞えば幣差が順に舞う。出合つて上段・下段をして押合う。押廻つてつきはなす。幣差を楽屋の方に向けて追込む。

鬼神は幣差を追つて出る。2・3度追廻し、両者別れて身構をする。前段の幣差との試合と同じように、幣差を楽屋の方へ追詰めて身構をする。順序をして杖と幣を打合せる。鬼神が後退すれば、幣差は押して行く。神楽場の中ほどで鬼神は踏留まる。大太刀は鬼神の背後へ行き、右肘を突きかける。鬼神は恐れて驚く。大太刀は太刀を抜いて身構をする。鬼神は2・3回クルイをする。太刀を打払う。幣差を楽屋の方に追詰めて大太刀に切込んで行く。小太刀・薙刀のかかり方は大太刀のかかり方と同じである。但し、幣差を追込んだ時は杖と幣を打合せて後退する。大太刀の時は幣と太刀とを杖に打合せて後退する。小太刀の時は杖で太刀2本と幣を受けて後退する。幣を中に太刀を幣の両方に受ける。その時、鬼神は神楽場の中ほどで足を止めて身構をする。薙刀が薙刀を杖につきかける。鬼神は大グルイをする。並神楽の寄進であれば、鎮座の舞上げをする。

註1 庭神楽をいう。

註2 おびえている所作をいう。